

富山市熊野川左岸側平地における2016年秋のツキノワグマの出没状況

白石俊明¹⁾・南部久男²⁾

¹⁾富山県立山カルデラ砂防博物館

〒930-1405 立山町芦峯寺字ブナ坂68

²⁾富山市科学博物館

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31

Note on appearance of Japanese black bear on the flat around Kumanogawa river in Toyama City, Toyama Prefecture, autumn in 2016

Toshiaki Shiraishi¹⁾ and Hisao Nambu²⁾

¹⁾Tateyama Caldera Sabo Museum, 68 Ashikuraji-bunazaka, Tateyama-machi, Toyama 930-1405, Japan

²⁾Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

要約：2016年秋の富山市熊野川左岸側平地でのクマの出没状況を明らかにするため、聞き取り及びカキノキに残る2016年秋のクマのツメ痕調査を行った。平地の富山市新村では、2016年秋のクマの足跡やツメ痕が発見され、熊野川左岸側平地で初めてクマの出没が確認された。移動経路と考えられる神通川右岸側河岸段丘崖のツメ痕のある割合は10.3%であった。2016年秋には少数のクマが上流側の山地から段丘崖沿いに先端まで移動し、さらに平地の集落へもカキの実を求めて出没したと考えられた。

はじめに

近年の富山県では2004年、2006年、2010年秋にツキノワグマ（以下クマと称す）の大量出没が起き、山麓や平地での出没が顕著になり、平地での人身被害が発生している（富山県，2005；富山県，2007，富山県，2018；富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク（JBN），2005；日本クマネットワーク，2014）。このため、平地でのクマの出没状況を把握しておくことは、今後の被害防除のためにも、重要なことである。

富山市では主に秋のクマの大量出没時には、熊野川右岸側の平地の広い範囲で出没が見られている（南部・白石，2012）。今まで、大量出没時、あるいは平年時においても、熊野川右岸側平地での出没は見られたものの、左岸側平地での出没は見られなかった。しかしながら、2016年秋は、左岸側の平地の富山市新村で初めてクマの出没が確認された（南部，2017）。このため、今回、新村でのクマの出没状況を明らかにするため、聞き取りと現地調査を行い、さらに新村への進出経路と

考えられる富山市大沢野地域の神通川右岸側の河岸段丘崖で2016年秋のクマの痕跡（カキノキに残るツメ痕）調査を行ったので報告する。

方法

新村での聞き取り及び現地調査は、2017年8月23日に行った。住民からのクマの出没状況の聞き取りとカキノキに残るクマのツメ痕調査を行った。神通川右岸側の河岸段丘崖の2016年秋につけられたカキノキに残るツメ痕調査は2017年7月10日及び8月23日に行った。ツメ痕調査は、クマの出没が見られた場所周辺（南部，2017）及び今回任意に選んだカキノキでも行った。

結果及び考察

新村での聞き取り調査

新村でのクマの出没に関する聞き取り調査結果を表1及び図1に示す。

聞き取り調査の結果、2箇所でクマのフンが、1箇所で、クマが畑を通った足跡の確認情報が得

られた。前者のフンの情報はすでに南部（2017）の報告と一致するもので、2箇所のうち1個のフンは13日12時頃の確認であったため、12日夜間のクマのフンと思われ、別の1箇所のフンも14日に発見されているが、12日と同一個体のクマのフンと考えられる。後者の足跡は新たな情報であると思われる。ツメ痕が残るカキノキは、7箇所て調査を行い、その内2箇所て計2本が確認された。また、新村にお住まいの年配の男性からは、「ずっとここにすんでいるが今までクマは出沒したことはない」との情報を得た。

これらのことから、新村では、2016年10月12日の夜間、1頭のクマがカキの実を求め集落を徘徊しながら、2箇所てフンをしたものと思われる。カキの実を食べた確実な場所は2箇所であった。調査が2017年8月であり、古くなったツメ痕が発見されなかった可能性も残る。

神通川右岸側の河岸段丘崖のクマの出沒

神通川右岸側の河岸段丘崖のカキノキに残るクマのツメ痕調査の結果を表2、図2に示す。

河岸段丘崖のカキノキに残る2106年秋のクマのツメ痕調査では、河岸段丘崖の先端（No.9, 10, 11）と南側（No.18, 22）の計5カ所てカキノキに残るクマのツメ痕が確認され、調査木全体に占める割合は10.3%であった。段丘崖の始まる直坂では、カキノキは集落周辺や離れた畑周辺にまとまってあったものの、2017年秋のツメ痕は1本でしか確認されなかった。南部（2107）によるとクマは2016年秋には河岸段丘先端と南側て出沒し、最も早い出沒は9月30日（小黒）で、新村の確認は10月13日である。最も遅い出沒は11月22日（大野）の住民による子グマの目撃であり、出沒したクマは同一個体なのかそれぞれ別個体なのかは不明である。

2016年秋の神通川本流山間部と段丘崖、熊野川流域でのクマの出沒

2016年秋は、神通川本流では、上流側て多少のクマの出沒があり、下流側の河岸段丘崖の出沒は上流側と比べると比較的多く、神通川右岸側支流の熊野川流域の山地ではクマの出沒はほとんど見られなかった（南部，2016）。

表1 富山市新村での聞き取り調査結果

地点*	状況**	情報源
1	2016年10月14日,民家の庭にフン	南部,2017
	2016年秋,民家の庭にフン2個(猟友会確認).ツメ痕なし.	住民聞き取り
	ツメ痕調査,0/5	現地調査
2	ツメ痕調査2箇所,それぞれ0/4,1/5	現地調査
3	ツメ痕調査3箇所,それぞれ0/1,1/1,0/3	現地調査
2又は3	2016年秋,カキ(品種ミズシマ)を5個食べていった.	住民聞き取り
4	2016年10月13日,民家の庭にフン	南部,2017
	2016年10月,民家の庭にフン	住民聞き取り
5	畑をクマが通っていった.	住民聞き取り
	ツメ痕調査,0/3	現地調査

*新村集落内での地点(図1)

**ツメ痕調査は、「ツメ痕があったカキノキの本数/調査本数」て示す。

表2 カキノキにつけられたクマのツメ痕の割合

地点	地名	調査本数	2015年秋以前のツメ痕があった本数	2016年秋	
				ツメ痕があった本数	割合(%)
1~5	新村	20	0	2	10
6	小黒橋下流右岸	2	0	0	0
7	小黒橋上流右岸	6	0	0	0
8	小黒橋上流左岸	7	0	0	0
9	小黒(公民館裏)	3	0	2	66.7
10	松野	2	0	1	50
11	松野	2	0	1	50
12	坂本	1	0	0	0
13	八木山	2	0	1	50
14	八木山	4	0	0	0
15	八木山	5	0	0	0
16	横桶	5	0	0	0
17	下タ林	1	0	1	100
18	下タ林	3	0	0	0
19	直坂(坂途中)	2	1	0	0
20	直坂(集落付近)	1	0	0	0
21	直坂(集落付近)	4	0	0	0
22	直坂(畑・林)	17	5	1	5.9
	計	87	6	9	10.3

6,7,8,11,12は7月10日,他は8月23日調査

2016年秋の堅果類（ドングリ）の豊凶は全県て不作で、神通川以東では、ブナ凶作、ミズナラ凶作、コナラ不作と特に実りが悪く（富山県，2016）、県東部を中心とし大量出沒の傾向がみられた（富山県，2018）。クマの大量出沒時には、カキノキに残るクマのツメ痕の割合は高くなることが知られ（後藤・南部，2012，2015；南部・白石，



図1 新村での調査地点（数字は表1に対応）



図2 神通川右岸段丘崖のクマの出没

●;2016年秋の出没地点（南部, 2017）
 ●;今回の調査で2016年秋のツメ痕があった地点
 ○;今回調査したが、クマのツメ痕が発見できなかった地点。
 新村は図1参照、図1, 2とも5万分の1国土地理院発行「八尾」,「五百石」使用

2012)、県東部の河川、角川、栃津川、郷川でのクマのツメ痕のある割合が高く、それぞれ43%（調査本数62本）、35%（51本）、69%（36本）であった（白石ら, 2017）。今回の神通川段丘崖全体のツメ痕のある割合は10.3%と、大量出沒地域の値

に比べると低く、また確認地点がまばらなことからも、大量出沒時の状況とは考えられなかった。そのため、2016年秋には、9月下旬から10月中旬にかけ、ごく僅かな数のクマが神通川右岸側の山地から段丘崖に沿ってカキの実を探しながら段丘崖先端の小黒まで進出し、さらには小黒から水田地帯の新村まで出沒したと考えられる。

まとめ

秋のクマの大量出沒時には、神通川本流や右岸側支流の熊野川では、山間部の集落周辺、山麓にかけ出現し、右岸側段丘崖周辺や熊野川右岸側の平地では出沒が広範囲に見られる（南部, 2007, 2011）。また、熊野川右岸側の平地での出沒は大量出沒年以外の平年より出沒が多い時でも見られることがある（南部, 2015）。一方、熊野川左岸側の新村での出沒は今回が初めてであり、その理由は不明であるものの、山地から平野へと続く段丘崖及び河川がクマの主要な進出経路となり、段丘崖沿いに出沒したクマが小黒橋より下流側の熊野川左岸側の平地にも出沒することがあると推測された。地形的要因は今後も変わることはなく、2004年秋から出沒が見られる熊野川右岸側の平地はもちろん、左岸側の平地においても継続的な情報収集や出沒への注意が必要であろう。

謝辞

聞き取り調査にご協力いただきました新村の住民の皆様にお礼申し上げます。

引用文献

後藤優介・南部久男, 2012. 富山県におけるツキノワグマによる2010年秋のカキノキ利用状況について. 富山の生物, 51: 93-100.
 後藤優介・南部久男, 2015. ツキノワグマの採食痕跡とほ乳類の特徴. pp.46-47. 富山の小河流域の生き物. 富山県生物学会・富山県小河流域調査グループ, 48pp. なかたに印刷.
 南部久男, 2007. 富山市におけるツキノワグマの出沒記録（2005・2006年）. 富山市科学文化センター研究報告, (30): 109-126.

- 南部久男. 2011. 富山市におけるツキノワグマの
出没記録 (2010年). 富山市科学博物館研究報
告, (34): 177-191.
- 南部久男. 2015. 富山市におけるツキノワグマの
出没記録 (2014年). 富山市科学博物館研究報
告, (39): 141-152.
- 南部久男. 2017. 富山市におけるツキノワグマの
出没記録 (2016年). 富山市科学博物館研究報
告, (41): 113-120.
- 南部久男・白石俊明. 2012. 富山県におけるツキ
ノワグマによる2006年秋のカキノキの痕跡. 富
山市科学博物館研究報告. 36: 9-12.
- 日本クマネットワーク. 2014. 「ツキノワグマお
よびヒグマの分布域拡縮の現状把握と軋轢防止
および危機個体群回復のための支援事業」報告
書.
- 白石俊明・南部久男・後藤優介・澤田研太.
2017. 富山県東部3河川流域における2016年秋
のカキノキに残るツキノワグマの痕跡. 富山の
生物. 56: 116-119.
- 富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワ
ーク (JBN). 2005. 富山県における2004年の
ツキノワグマの出没状況調査報告書. pp.112+
CD.
- 富山県. 2005. 富山県ツキノワグマ保護管理暫定
指針 (ガイドライン). pp.27+35.
- 富山県. 2007. 富山県ツキノワグマ保護管理暫定
指針 (ガイドライン). pp.93.
- 富山県. 2017. 富山県ツキノワグマ管理計画 (第
3期). [http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/
1709/kj00017572.html](http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1709/kj00017572.html) (2017年3月31日)
- 富山県. 2016. 平成28年堅果類『ドングリ』の
豊凶調査結果について. [http://www.pref.
toyama.jp/cms_sec/1709/kj00016975.html](http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1709/kj00016975.html)
(2016年10月6日)
- 富山県. 2018. 平成28年 ツキノワグマの目撃痕
跡情報. [http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/
1709/kj00016151.html](http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1709/kj00016151.html) (2018年1月10日)